

Top Message …P1

ファンとホール、メーカーをつなぐ  
情報インフラを高度化することで業界を変革し、  
新たな成長を続けてまいります。

ダイコク電機最前線 **Fade in** …P5

- 深夜の人気番組「パチンコNOW TV」がリニューアル
- 関西ノムラ資産管理フェア2006
- 「Survive NEXT ～次代を切り開くホール戦略～」

● 営業のご報告 …P7

● セグメント別の状況 …P9





代表取締役社長 栢森雅勝

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、日本を代表するレジャーであるパチンコ業界に事業領域をフォーカスしています。パチンコホール情報を収集し、分析、フィードバックすることで、ファンのニーズに合ったホール環境づくり、遊技機づくりなどをサポートし、業界の健全な発展に貢献しています。

2006年3月期の事業概要をご報告するにあたり、パチンコ市場や業界を取り巻く環境、そのなかでの当社の取り組みなどにつきまして、代表取締役社長の栢森雅勝からお話させていただきます。

## ファンとホール、メーカーをつなぐ情報インフラを高度化することで業界を変革し、新たな成長を続けてまいります。

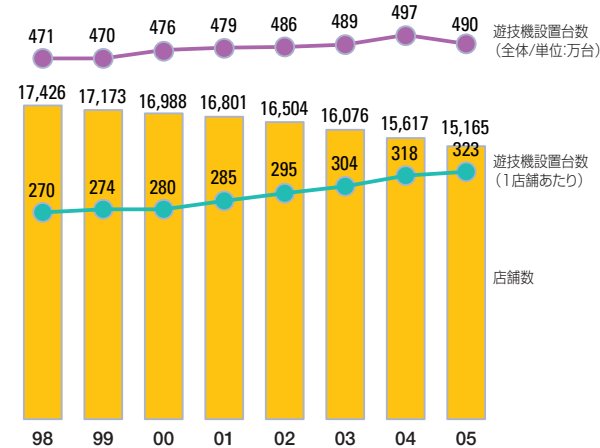
### パチンコ業界の市場環境

#### ● 新機種の市場参入による市場の変化

全国のパチンコホール数は2004年から452店舗減少して15,165店舗となり、1995年をピークに減少し続けています。パチンコ・パチスロ遊技機設置台数は4,899,198台で、店舗数の減少にともない69,958台減少しておりますが、1店舗あたりの遊技機設置台数は323.1台と平均で4.9台増加しており、中小の店舗が大きな店舗にリプレースする傾向が高まっています。

2004年7月から「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」及び「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」(以下、あわせて「新規則」といいます。)が施行され、

#### ● パチンコ店舗数及びパチンコ・パチスロ遊技機設置台数の推移



調査資料の出处:「平成17年における風俗関係事犯等について」(2005年12月末日現在)

パチンコ遊技機ではこの「新規則」に準拠したゲーム性豊かな新機種が市場投入されました。パチスロ遊技機は昨年夏以降に新機種の認定が始まり、市場に投入されてきています。

ゲーム性が高まったことによる、新たなファンの市場参入や団塊の世代のリタイア需要を勘案すると、これから成長が期待できる市場であると考えます。

#### ● ファンとホールのコミュニケーションを向上

パチンコ産業は、「衣・食・住」の次に求められる「アミューズメント」の産業に属します。生活にかかわる基礎的インフラが整備されている先進国では、アミューズメントに対するニーズは高く、人生の楽しさ、生きがいづくりに貢献できる産業だと考えています。わたしたちは、ファンの視点を、ビジネスの基本として捉え、ファンがパチンコホールに何を求めているのか、どうしたら楽しい演出や空間づくりができるのかを絶えず模索しています。ファンが喜ぶことを提案していくことが、ホールの経営力向上につながり、遊技機メーカーの開発力アップに貢献していくと考えています。

ホールの大型化が進む中で、今後競争力をつけるのは、パッケージではなく情報インフラです。大切なことは、ファンのニーズをホールが詳細に把握し、互いにメッセージを交換することで、コミュニケーションを深め、自店の固定客となってもらうことです。当社の情報公開機器は、大型液晶ディスプレイで店内のイベント情報や台情報をお知らせするほか、遊技機1台ごとに設置された端末では一人ひとりのファンにホールからのメッセージをお伝えし、また、アンケートなどの形でファンの声をホールにフィードバックする役割を果たします。会員カードなどをご

利用いただくと、個人のプロフィールに合ったタイムリーな情報発信も可能となります。このようにファンとホールの緊密な関係づくりこそが競争力の源泉となります。

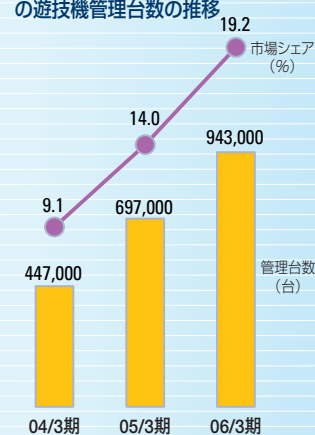
#### ● 情報インフラでホール経営の改善を支援

ファンが楽しめるホール環境づくりをサポートしていくために、わたしたちはホールの遊技機を管理するホールコンピューティングシステム「C」と、全国約1,900ホールの契約店舗の日々の営業データを収集し、分析、加工後、フィードバックするパチンコホール向け会員制情報提供サービス「DK-SIS」を融合した提案をしています。

パチンコはアミューズメント産業ですので、映画やゲームのようにヒットが出ることで稼動(売上)が上がります。しかし、どんな人気機種にも寿命があります。自店の機種稼動が低下している時、「DK-SIS」を使って全国のホールにおける同機種の各種データ(稼動率など)で検証すれば、管理の仕方が機種の面白さを生かせなかったのか、機種の寿命が尽きたのかを明確な視点で判断できます。

また、「新規則」によるゲーム性の高いパチンコ機種が登場してきたことで、ファンが楽しむ要素であるゲーム性を生かしながら、

#### ● ホールコンピューティングシステム「C」の遊技機管理台数の推移



適切な利益を確保するため、ホールコンピューティングシステム「C」が有効に経営をサポートします。このようにファンの楽しみを最大化しながら、ホールが安定した経営を継続できることを支援するのが、情報システム事業のミッションとなります。

これらのシステムをホール経営者に広く浸透させるため、2月に「次代を切り開くホール戦略」をテーマに

全国主要都市4会場でセミナーを開催し、719社1,896名の方にご来場いただきました。また、システムのメンテナンス体制も改革し、ホールにより質の高い保守サービスを提供していくことで、緊密な関係を構築していきます。

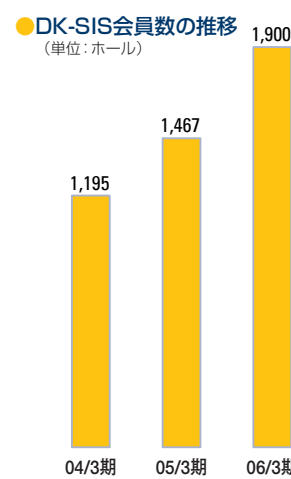
これらの結果、当期はホールコンピューティングシステム「C」の納入数、「DK-SIS」の会員数、情報公開機器の販売数共に堅調に推移しました。

### ● ファンの視点に立った遊技機のユニットを開発

ファンが楽しめるパチンコ遊技機の開発パートナーとして、遊技機用の表示ユニットや制御ユニットの開発・製造・販売をおこなっています。

「DK-SIS」を利用することで、全国各地でどのような機種が設置され、評価されているかといったデータから人気機種の傾向分析が可能となり、新機種開発に役立っています。こうした分析結果をパチンコ遊技機メーカーに対してより具体的に、企画として提案できるのがダイコク電機の強みです。

現在、テレビやゲーム機の高画質化によりパチンコ遊技機の液晶画面でも、高精度で3次元の動きが表現できる画質が要求



されています。これに対応するため2月にゲームの企画・開発会社である元気(株)の株式69.1%を取得し、子会社化しました。昨年7月には、アミューズメント映像制作の(株)ラピスの株式37.5%を取得し、関連会社としました。これによりゲーム性の高い、高精度な映像の表示ユニット、制御ユニットの開発力を強化していきます。

### ● コンテンツ発信力を強化し、ファン層を拡大

わたしたちは、ファン層の拡大こそが健全な業界の発展につながるものと考えています。ファンに向けた情報発信事業を昨年4月に分社化し、DIXEO(株)を設立、ファンのニーズに応える機動的な体制を整備しました。DIXEOはインターネットを利用してPCや携帯のサイトに全国のホールの出玉情報などを伝える「データロボ サイトセブン」を運営しています。また、当社

### ● 価値情報ネットワークシステムの実現

ファン、ホール、遊技機メーカーに情報が流れる仕組みを実現する。

情報が流れることで、行動が変わる。  
パチンコファン・ホール・メーカーを巻き込み、  
業界全体の行動が変わればそれは変革になる。  
ダイコク電機は、情報の流れを担って  
いくことで変革の中心となる。



が運営するSKY PerfecTV!の番組「パチ・スロ サイトセブンTV」も順調に会員数が増加しています。ファンに価値のある情報を様々なメディアを通じて発信していくことで、今後とも更なるファン層を開拓していきます。

### 中長期におけるビジョンと戦略……………

### ● 情報交流を進化させ、業界の成長を促進

中長期における戦略は、ダイコク電機グループが中核となって、パチンコ業界全体を変革していくことです。そのためにファンやホール、遊技機メーカーに対し、双方向で情報が流れる仕組みを構築していきます。ファンに対しては、インターネットやテレビを活用してホールの情報を伝え、ホール内では情報公開機器を使ってファンとのコミュニケーションをはかります。



ホールに対しては、「DK-SIS」とホールコンピューティングシステム「C」を融合させ、ファンが楽しめる機種の最適な設定や入替など経営を支援していきます。遊技機メーカーには、「DK-SIS」を使ってホールにおける機種の稼働状況などの情報を提供し、新たな開発の指針としてもらいます。

このように3者の情報交流の中心に、わたしたちがアドレスしていくことで、互いのニーズを伝え合い、開発や経営改善にフィードバックしていくことで、業界の健全な成長を支援していきます。

### ● 変化の連鎖で社会に貢献

ダイコク電機グループが組織として取り組んでいることは、全グループ社員が常に変化していける環境を創り出すことです。ビジネスの中で新しい価値を創造していくのは個人です。その個人のモチベーションを上げるための教育研修には、様々なツールを用意しています。そこで生まれた価値を製品やサービスの形にして浸透させていくのは組織の役割です。その製品をお客さまが利用された時点で、お客さまのビジネスが変わってきます。

まず、個人が変わることで、組織が変わり、業界が変わります。わたしたちは変化の連鎖によって、業界全体を変革していくことで、社会貢献を実践し、自らの成長を果たしていこうと考えています。

## 深夜の人気番組 「パチンコNOW TV」が リニューアル



1991年日本初のパチンコ情報TV番組として放送開始よりはや15年。長寿番組として名高い「パチンコNOW」シリーズ第5弾「パチンコNOW TV」がスタート!

MCに根本はるみ、アシスタントに名和郁代(なわいくよ)を迎え、番組を盛り上げています。

ホールのイベント情報や看板娘を紹介する「ホールどUP!」のコーナー。レポーターの大島由美子の「3,000円勝負」は視聴者のみならず、撮影時に来店されているお客様からも、たくさんのお便りメッセージをいただいております。

その時々のお話の機種を紹介する「新台NOW」のコーナーでは、新台の予告・リーチアクションやプレミアム情報をモリピーこと守屋彰二による詳しい解説付きで紹介しています。

また、携帯・PCサイト「データロボ サイトセブン」の情報も満載でお送りし、より多くの視聴者を獲得できるよう頑張っていきます。ぜひご覧ください。



## 関西ノムラ 資産管理フェア2006



2006年2月17日～18日(金～土曜日)の2日間、大阪ドームで開催されました個人投資家向け大型IRイベント「関西ノムラ資産管理フェア2006」にブース出展をおこないました。当社として大阪地区では初めてとなる大規模なIRイベントへの参加で、その出展社数約140社、2日間の来場者数も昨年比1.6倍の約4万名と昨今の投資ブームを大きく反映して会場は活況を呈しておりました。

当社ブースでは会社概況の説明の他、来場されたお客様に対して当社の知名度アンケートを実施しました。昨年9月に参加した「東海三県ノムラ資産管理フェア2005」で、同じように実施したアンケートとの結果を比べると知名度



はかなり低く、パチンコをされない方には当社がほとんど知られていないのが現状でした。

この結果を踏まえ、今後は名古屋以外の地域でもIR活動を積極的に実施し、会社知名度の向上に向けて努力していきたいと思っております。ご来場いただきました大勢の投資家の皆さま、ありがとうございました。引き続きご支援のほど宜しくお願いいたします。

## 「Survive NEXT ～次代を切り開くホール戦略～」



2006年2月2日名古屋会場を皮切りに、東京、福岡、大阪の全国4会場、延べ5日間に渡りダイコク電機展示会&セミナーを開催しました。

パチンコ業界は、遊技規則改正と検定有効期限の関係で2007年6月末にはパチスロ4号機が市場から姿を消し、かわりに5号機が導入されます。こうしたパチスロの5号機時代突入により、ホール経営は新たな局面を迎えています。今回の展示会では、この厳しい大競争時代を打開し勝ち残るための新機軸を提案させていただきました。業界関係者から注目の集まる最もタイムリーな話題に、多数のホール経営者・関係者の方々にご参加いただきました。

展示会場では、当社が誇る情報公開機器の製品ラインナップによる「効果的な情報公開」「魅力的な営業演出」を伝える実践型のショーが好評を博し、多くの受注につながりました。様々な演出に展示会場全体が熱気に満ちあふれ、大盛況のうちに終了しました。

### ●セミナー「2006年 業界激動の1年を読む」～ファンを動かす遊技機動向予測～

「2006年の業界動向を予測する」という内容に、聴講者の方々も非常に興味をもって参加された方が多かったように感じました。やはりパチスロ4号機の撤去と5号機の業績が興味を引く大きな要因だったと思われます。現状の5号機の業績から全体の業績、さらには今後の業績に与える影響を、当社が誇る「DK-SIS」のデータに基づいて分析した内容に、真剣なまなざしで受講する方が数多く集まりました。会場によっては席数がかなり足りなくなったことも「DK-SIS」のデータを用いたセミナーへの期待感の高さが反映された結果と言えます。今後もその期待に応えるべく、セミナー活動に力を入れてまいります。

#### 来場者数

名古屋会場	292名
東京会場 (2日間合計)	895名
福岡会場	286名
大阪会場	423名
合計 (4会場・5日間)	1,896名



## New Products 新製品情報

### データ表示呼出ランプ メフィードGP

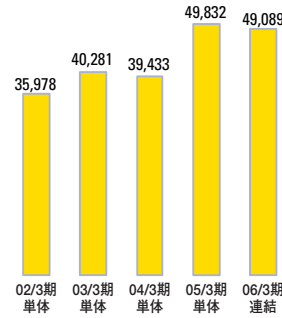
新製品「メフィードGP」は、斬新なデザインの呼出ランプで、インパクトとわかりやすさを追求しました。まず、業界最大級の大当たり回数表示が真っ先に目に飛び込んできます。表示内容が一目瞭然で非常にわかりやすくなっています。表示部のすぐ横にマルチカラーLEDを配置し、横方向からのランプの光が非常に綺麗になりました。これによりあらゆる方向のファンの視線から鮮やかに印象づけられる仕様になっています。そのほか多彩なマルチ点灯パターンでイベントコーナーをファンへアピールすることができる等、遊技機への期待感を高める光の演出も可能です。



### 主要財務データ

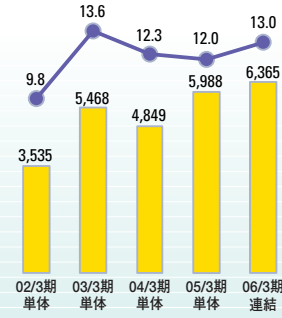
## Key Financial Data

●売上高 (単位:百万円)



●営業利益 (単位:百万円)

●売上高営業利益率 (単位:%)



●経常利益 (単位:百万円)

●売上高経常利益率 (単位:%)



### 当期の取り組みと成果

当社グループが携わるパチンコ業界は、パチンコ遊技機の多様化が進み、遊技機等の活用によるパチンコホールの二極化がさらに進んでおります。また、警察庁生活安全局生活環境課発表の「平成17年における風俗関係事犯等について」によると、パチンコホール数は、2004年に比べて452店舗減少し、15,165店舗となり、1995年をピークに減少し続けております。パチンコホールの遊技機設置台数は4,899,198台で、店舗数の減少にともない69,958台減少しておりますが、1店舗あたりの遊技機設置台数は323.1台と平均で4.9台増加し、店舗の大型化傾向がますます顕著になってきております。

2004年7月に警察庁より「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則」及び「遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則」(以下、あわせて「新規則」といいます。)が施行され、「新規則」に基づく多様なパチンコ遊技機が市場の大半を占めるようになりました。

このような状況のもと、当社グループは期初業績計画として売上高473億5千万円、経常利益57億円、当期純利益30億5千万円を掲げ、営業努力に努めました。

その結果、情報システム事業は、ホールコンピューティングシステム「C」、パチンコホール向け会員制情報提供サービス「DK-SIS」、さらに情報公開システムを組み合わせたトータルネットワークシステムの提案が市場に評価され、特に情報公開製品「プレジャービジョン」の納入が好調に進みました。一方、制御システム事業は、検査機関による検査の長期化の影響も受け、市場投入機種数が予定より下回りました。

この結果、売上高490億89百万円、営業利益63億65百万円、経常利益67億82百万円、当期純利益34億95百万円となりました。

### 対処すべき課題

#### <情報システム事業>

##### 1. DKトータルネットワークサービスの構築

顧客であるパチンコホールの店舗運営を強力に支援するため、「C」と「DK-SIS」の融合を促進します。さらに、コンテンツサービスを軸とした営業支援システムを構築するために、積極的な開発投資をし、事業領域を拡大してまいります。

##### 2. 情報公開製品の拡販

パチンコホールとパチンコファンとのコミュニケーションツールである情報公開製品の機能向上をはかるとともに、製品ラインナップを増やし、さらに運用提案まで実施し、新店のみならず既存店に対しても営業活動を拡げてまいります。

##### 3. メンテナンス体制の改革

導入していただいたパチンコホールに、安心して機器を活用いただくために、ネットワークを活用した効率の良いメンテナンス体制を構築し、顧客満足度を高めてまいります。

#### <制御システム事業>

##### 1. 企画提案力の強化

「DK-SIS」や情報システム事業セクタと連携することにより総合提案力を強化し、メーカーと一体となって市場に対する企画提案をおこない、表示ユニット、制御ユニットを一式受注し、販売数量の増加を目指します。

##### 2. 開発力強化による開発期間の短縮と機種数の増大

人員体制の強化と、元気株式会社の子会社化によるメリットを最大限に生かし、開発力を高めるとともに開発期間を短縮し、開発機種数の増大をはかります。

また、研究開発チームでは、表示ユニットにおいて新技術を駆使した研究開発に取り組み、製品優位性を打ち出し、製品の付加価値の向上を目指します。

##### 3. 顧客から信頼される製造・物流体制の構築

製品の安定した品質、適正な価格、要求に合った納期を実現することによって、「安心・安全・信頼」で競合他社と差別化をはかります。

#### <アミューズメントコンテンツ事業>

##### 確固とした技術の軸、収益の軸を構築する

アミューズメントコンテンツの技術力をさらに向上させ、新たなビジネスモデルの構築を目指します。

### 次期の見通し

パチンコ業界はパチンコ、パチスロみなし機の撤去がおこなわれることにより、パチンコホールでは集客・収益戦略の再構築が迫られると思われまます。

このような環境下、引き続き当社グループは、情報システム事業におきましては、新しいゲーム性を持つ遊技機の活用提案や情報公開製品を中心とする設備機器による集客戦略の提案によりパチンコホールの店舗運営を強力に支援してまいります。制御システム事業におきましては、魅力のあるパチンコ遊技機の企画提案力・開発力をさらに強化してまいります。

2007年3月期の連結業績見通しにつきましては、情報システム事業は売上高297億円(前期比2.1%増)、制御システム事業は売上高210億円(同5.4%増)、アミューズメントコンテンツ事業は売上高33億円と見込んでおります。

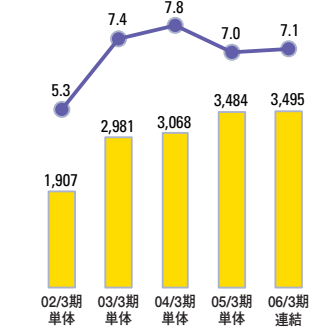
この結果、連結売上高は540億円(同10.0%増)、経常利益は先行開発費が増加することにより66億5千万円(同2.0%減)、当期純利益は36億9千万円(同5.6%増)を見込んでおります。

#### 業績の見通しに関する注意事項

本冊子に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。従いまして、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

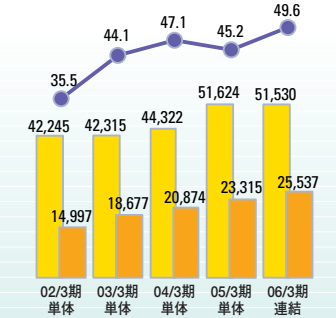
●当期純利益 (単位:百万円)

●売上高当期純利益率 (単位:%)



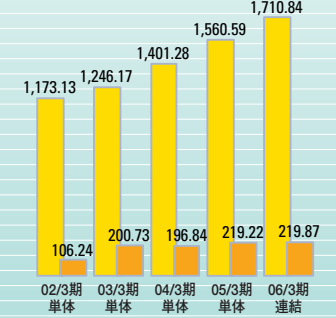
●総資産 ●株主資本 (単位:百万円)

●株主資本比率 (単位:%)



●一株当たり株主資本 (単位:円)

●一株当たり当期純利益 (単位:円)



9

セグメント別の状況 By Business Segment

10

情報システム事業

売上比率  
59.4%

●情報システム事業売上高

期	売上高 (百万円)
02/3期 単体	20,173
03/3期 単体	20,822
04/3期 単体	21,752
05/3期 単体	25,867
06/3期 連結	29,173

●情報システム事業売上高構成比  
(百万円未満は切捨て)

項目	金額 (百万円)	比率
ファン向けサイト事業 (DIXEO)	637	2.2%
工事収入等	5,371	1.0%
商品 (消耗品等)	291	1.0%
景品顧客管理システム	5,376	18.4%
製品	22,872	78.4%
情報公開システム	8,855	30.4%
その他	708	2.4%
ホールコンピュータ	7,932	27.2%

顧客であるパチンコホールは、2004年7月に施行された「新規則」に基づく遊技機の積極的な導入をはかりました。その一方で店舗動向は、大手チェーン店の新規出店と店舗の大型化がより進み、競争が激化いたしました。

以上のような状況において当社は、「C」と「DK-SIS」の融合をさらにすすめてきたことにより、「C」は、新しい遊技機を活用するための経営ツールとして、パチンコホールより高い評価を得ることができました。また、パチンコファン集客のため、情報公開製品を強化した結果、パチンコホールとパチンコファンとのコミュニケーションツールとして、店舗競争の差別化をはかるため、パチンコホールへの納入が促進されました。特に、新製品のプレミアムビジョンPV-55 IIは、好調に推移いたしました。

また、2006年2月に「Survive NEXT～次代を切り開くホール戦略～」と題して全国4会場で展示会を開催し、719社、1,896名の方にご来場いただき、情報公開製品の活用提案を実演することで、より一層の拡販をはかることができました。

以上の結果、当部門の売上高は291億73百万円となりました。

情報公開機器ラインナップ

① 台毎トップランプ DATA-IRIS  
新基準機最大の魅力である「確変継続回数」表示機能を搭載したトップランプです。

② ロボパートナー IL-90C II  
これまでの概念を超えた上品な光演出や、イベント告知などの情報を伝えるテロップ表示を搭載した呼出ランプです。

③ 台毎インフォメーション INFO-CUBE  
ランプでは表現できない、もっと楽しく遊べる情報やメッセージ等を提供し、遊技機のおもしろさを倍増させる製品です。

制御システム事業

売上比率  
40.6%

●制御システム事業売上高

期	売上高 (百万円)
02/3期 単体	15,804
03/3期 単体	19,458
04/3期 単体	17,680
05/3期 単体	23,965
06/3期 連結	19,915

●制御システム事業売上高構成比  
(百万円未満は切捨て)

項目	金額 (百万円)	比率
製品	11,312	56.8%
表示ユニット	7,911	39.7%
制御ユニット	3,204	16.1%
商品 (部品)	8,602	43.2%
その他	197	1.0%

当期における遊技機市場は、2004年7月の「新規則」施行により、パチンコ遊技機に関しては、バリエーション豊かな遊技機の開発が可能になり、市場の大半が新基準機に置き換わりました。パチスロ遊技機に関しては、新基準機も販売されましたが、旧基準機中心の動きとなりました。

遊技機検査機関である財団法人保安電子通信技術協会への申請・適合件数は、同協会ホームページに掲載の統計資料によると、パチンコ遊技機は申請件数が797機種(前期比142機種増)、適合件数が504機種(同22機種増)となりました。また、パチスロ遊技機は申請件数が539機種(同269機種増)、適合件数が102機種(増減無)となりました。

このような市場環境のなか、当事業部門は、制御ユニットで受注機種数の増加により17.5万台(前期比54.9%増)の出荷数量となりましたが、表示ユニットでは検査機関による検査の長期化によって市場投入機種数の減少となり32.5万台(同27.9%減)の出荷数量となりました。また、商品販売においては、液晶パネルの販売が減少したことにより86億3百万円(同22.3%減)となりました。

その結果、当部門の売上高は199億15百万円となりました。

表示ユニット

パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。

制御ユニット

基本動作をつかさどるハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。

商品 (部品)

パチンコ遊技機に使用される液晶パネル、スイッチ、ソレノイドなどのオートメーションパーツの仕入販売をしております。

●表参道デザインスタジオ

▲開発風景

連結貸借対照表(要旨)

科目	当連結会計年度 2006年3月31日現在
<b>資産の部</b>	
流動資産	30,186
固定資産	21,344
有形固定資産	7,702
無形固定資産	3,980
投資その他の資産	9,662
資産合計	51,530
<b>負債の部</b>	
流動負債	25,179
固定負債	813
負債合計	25,993
少数株主持分	—
<b>資本の部</b>	
資本金	674
資本剰余金	680
利益剰余金	24,172
その他有価証券評価差額金	12
自己株式	△ 0
資本合計	25,537
負債・少数株主持分及び資本合計	51,530

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

連結損益計算書(要旨)

科目	当連結会計年度 2005年4月1日から 2006年3月31日まで
売上高	49,089
売上原価	32,110
売上総利益	16,978
販売費及び一般管理費	10,612
営業利益	6,365
営業外収益	556
営業外費用	138
経常利益	6,782
特別利益	16
特別損失	627
税金等調整前当期純利益	6,171
法人税、住民税及び事業税	2,896
法人税等調整額	△ 220
当期純利益	3,495

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

連結剰余金計算書(要旨)

科目	当連結会計年度 2005年4月1日から 2006年3月31日まで
<b>資本剰余金の部</b>	
資本剰余金期首残高	680
資本剰余金期末残高	680
<b>利益剰余金の部</b>	
利益剰余金期首残高	21,955
利益剰余金増加高	3,495
利益剰余金減少高	1,278
利益剰余金期末残高	24,172

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	当連結会計年度 2005年4月1日から 2006年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,046
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,644
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,283
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,881
現金及び現金同等物の期首残高	13,493
現金及び現金同等物の期末残高	10,611

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

貸借対照表(要旨)

科目	当事業年度 2006年3月31日現在	前事業年度 2005年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	28,404	34,192
固定資産	20,409	17,431
有形固定資産	7,621	7,961
無形固定資産	1,564	1,838
投資その他の資産	11,224	7,631
資産合計	48,813	51,624
<b>負債の部</b>		
流動負債	23,061	24,761
固定負債	336	3,546
負債合計	23,397	28,308
<b>資本の部</b>		
資本金	674	674
資本剰余金	680	680
利益剰余金	24,050	21,955
その他有価証券評価差額金	12	6
自己株式	△ 0	△ 0
資本合計	25,416	23,315
負債及び資本合計	48,813	51,624

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

損益計算書(要旨)

科目	当事業年度 2005年4月1日から 2006年3月31日まで	前事業年度 2004年4月1日から 2005年3月31日まで
売上高	48,452	49,832
売上原価	32,079	33,315
売上総利益	16,372	16,517
販売費及び一般管理費	10,282	10,528
営業利益	6,089	5,988
営業外収益	603	814
営業外費用	138	164
経常利益	6,554	6,638
特別利益	30	—
特別損失	627	511
税引前当期純利益	5,957	6,126
法人税、住民税及び事業税	2,782	3,196
法人税等調整額	△ 198	△ 554
当期純利益	3,374	3,484
前期繰越利益	1,776	1,562
中間配当額	147	147
当期末処分利益	5,002	4,899

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

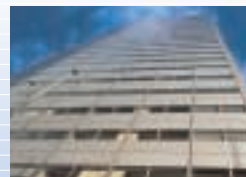
利益処分

科目	当事業年度 2005年4月1日から 2006年3月31日まで	前事業年度 2004年4月1日から 2005年3月31日まで
当期末処分利益	5,002	4,899
任意積立金取崩額		
特別償却準備金取崩額	7	7
計	5,010	4,907
利益処分別		
利益配当金	1,034	887
1株につき70円 (普通配当30円)		1株につき60円 (普通配当30円)
(特別配当40円)		(特別配当30円)
取締役賞与金	201	232
監査役賞与金	20	11
任意積立金		
別途積立金	1,000	2,000
次期繰越利益	2,753	1,776

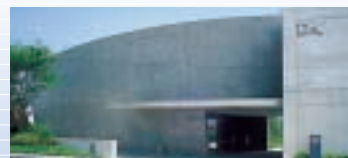
(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

(2006年3月31日現在)

●商号	ダイコク電機株式会社 DAIKOKU DENKI CO., LTD.
●創業	1964年12月
●設立	1973年 7月
●資本金	6億7千4百万円(発行済株式総数14,783,900株)
●本社	名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階
●従業員数	(単体)409名 (連結)632名
●事業内容	パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売 パチンコ・パチスロ遊技機用ユニットの開発・製造・販売
●役員	取締役会長 小山 晴 久 代表取締役社長 栢 森 雅 勝 代表取締役副社長 栢 森 秀 行 代表取締役専務 栢 森 健 健 常務取締役 岩 根 節 雄 取締役 伊 藤 茂 年 取締役 平 原 正 義 取締役 山 下 陽 陽 取締役 根 本 弘 弘 取締役 堀 田 昌 郎 取締役 國 保 徳 丸 常勤監査役 山 崎 健 二 郎 常勤監査役 伊 東 幹 夫 監査役 田 中 正 雄 監査役 敷 田 稔 稔 監査役 村 橋 泰 志
(注) 1.	取締役 堀田昌郎氏、國保徳丸氏は社外取締役であります。
2.	監査役 田中正雄氏、敷田稔氏、村橋泰志氏は社外監査役であります。



本社



本部事業所

## ●事業所一覧

本 社	〒450-8640	名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階 TEL(052)581-7111(代表)
本部事業所	〒480-0395	春日井市坂下町1丁目875 TEL(0568)88-7111
高蔵寺事業所	〒487-0014	春日井市気噴町一丁目2番地 TEL(0568)51-7111
春日井事業所	〒480-0304	春日井市神屋町1番26 TEL(0568)88-7771
表道デザインスタジオ	〒107-0061	東京都港区北青山三丁目3番11号 ルネ青山ビル

## ●拠点一覧

北日本支店	〒980-0014	仙台市青葉区本町二丁目2番3号 鹿島広業ビル
・札幌営業所	〒001-0011	札幌市北区北十一条西四丁目1番地44 ベルエアプラザ
・盛岡出張所	〒020-0135	盛岡市大新町6番35号 アイビル大新町
関東支店	〒110-0005	東京都台東区上野七丁目2番10号 上野駅前第一生命ビル
・茨城営業所	〒305-0032	つくば市竹園二丁目2番地4 第2・ISSEIビル
・北関東営業所	〒330-6022	さいたま市中央区新都心11番地2 明治安田生命さいたま新都心L.A.タワー
・新潟出張所	〒950-0925	新潟市弁天橋通1丁目2番39号 VMビルディング
中部支店	〒480-0304	春日井市神屋町1番26
・金沢出張所	〒920-0027	金沢市駅西新町3丁目9番26号
・松本出張所	〒390-0852	松本市大字島立399番地1 滴水ビル
西日本支店	〒532-0003	大阪市淀川区宮原四丁目1番14号 住友生命新大阪北ビル
・岡山営業所	〒700-0927	岡山市西古松一丁目1番26号 オム第IIビル
・高松出張所	〒761-8071	高松市伏石町795番地1 丸忠IIIビル
九州支店	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号 ヤマエ博多駅南ビル
・広島営業所	〒731-0138	広島市安佐南区祇園3丁目45番11号
・宮崎出張所	〒880-0801	宮崎市老松一丁目3番3号 松屋ビル

## ●関係会社

連結子会社	DIXEO(ディクセオ)株式会社、元気株式会社、元気モバイル株式会社
関連会社	株式会社ラビス

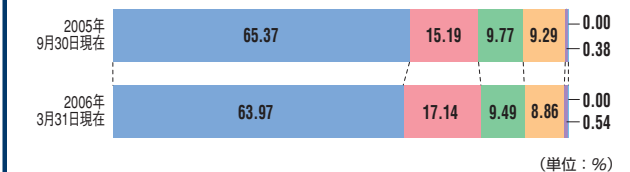
(2006年3月31日現在)

## ●株式状況

会社が発行する株式の総数	66,747,000株
発行済株式総数	14,783,900株
株主数	2,703名

## ●所有者別株式分布状況

	2006年3月31日現在		2005年9月30日現在	
■個人・その他	9,457,762株	2,520名	9,664,550株	2,427名
■金融機関	2,533,900株	38名	2,244,804株	36名
■その他国内法人	1,402,300株	62名	1,444,800株	67名
■外国人	1,309,400株	62名	1,373,596株	46名
■証券会社	80,398株	20名	56,060株	21名
■自己名義株式	140株	1名	90株	1名
合計	14,783,900株	2,703名	14,783,900株	2,598名



## ●持株数別株式分布状況

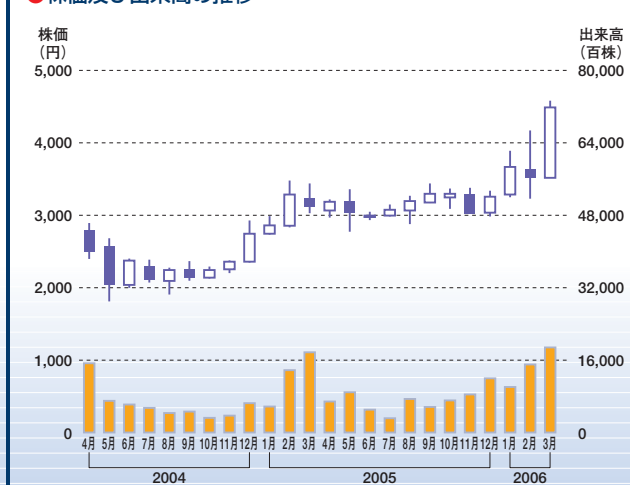
	2006年3月31日現在		2005年9月30日現在	
1単元未満	210株	7名	110株	2名
1単元以上5単元未満	271,000株	1,757名	271,354株	1,653名
5単元以上10単元未満	154,300株	265名	154,200株	265名
10単元以上50単元未満	869,650株	529名	865,946株	538名
50単元以上100単元未満	327,650株	50名	322,550株	47名
100単元以上500単元未満	1,499,450株	71名	1,386,450株	67名
500単元以上1,000単元未満	354,800株	5名	416,700株	7名
1,000単元以上5,000単元未満	1,564,700株	9名	2,154,000株	10名
5,000単元以上	9,742,000株	9名	9,212,500株	8名
合計	14,783,760株	2,702名	14,783,810株	2,597名

(注) 1. 2006年3月31日現在の持株数別株式分布状況には、自己名義株式1名140株を含んでおりません。  
2. 2005年9月30日現在の持株数別株式分布状況には、自己名義株式1名90株を含んでおりません。

## ●大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
栢 森 雅 勝	1,885,550	12.75
栢 森 秀 行	1,772,500	11.99
栢 森 健 健	1,771,000	11.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	973,200	6.58
財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢 森 新 治	737,150	4.99
栢 森 隆 隆	712,500	4.82
栢 森 美 智 子	626,000	4.23
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	514,100	3.48
ダイコク電機従業員持株会	308,900	2.09
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505019	254,100	1.72
ザチースマンハッタンバンクエスイロントニスエルコム(スアカット)	238,600	1.61
野村信託銀行株式会社(投信口)	153,500	1.04
株式会社みずほ銀行	150,000	1.01
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	129,300	0.87
ピーエイチ・ストラット・フォー・ムラジナル・モーター・キャピタル・インベシジョン・ファンド	111,600	0.75
株式会社三菱東京UFJ銀行	110,000	0.74
資産管理サービス信託銀行株式会社	108,700	0.74
三菱UFJ信託銀行株式会社(投信口)	96,800	0.65
ドリーム	79,600	0.54

## ●株価及び出来高の推移





## 株主メモ

- **事業年度** 4月1日から翌年3月31日
  - **定時株主総会** 6月下旬
  - **基準日**
    - 定時株主総会 3月31日
    - 期末配当 3月31日
    - 中間配当 9月30日その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
  - **株主名簿管理人** 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
  - **同事務取扱場所** 〒460-8685  
名古屋市中区栄三丁目15番33号  
中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部  
TEL. 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
  - **同取次所** 中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
  - **公告方法** 電子公告によります。ただし、やむを得ない事由によつて電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 公告のホームページアドレス <http://www.daikoku.co.jp/investor/kessan.html>

### 〈お知らせ〉

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。



〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階

TEL(052)581-7111(代表)

ホームページ <http://www.daikoku.co.jp>